Express5800/LB300e

はじめにお読みください

NEC

Startup Guide

スタートアップガイド

856-126855-006-00　2007年4月　初版

856-126855-006-00

箱を開けてから本装置の初期設定を完了するまでの手順を説明します。このスタートアップガイドに従って作業してください。

1 添付品を確認する

梱包箱を開け、添付品がそろっていることを確認してください(ご注文の構成により、下記以外の添付品が同梱されている場合があります)。

- 本体
- 電源コード
- フロントベゼル
- セキュリティキー(フロントベゼル内側に貼り付けられています)
- ラック搭載用取り付け部品(ステップ4を参照)
- ソフトウェアパッケージ一式(バックアップCD-ROM含む)
- EXPRESSBUILDER CD-ROM*
- SystemGlobe DianaScope Additional Server Licence(1)(DianaScopeのライセンス)
- お客様登録申込書
- 保証書(本体梱包箱に貼り付けられています)
- 使用上のご注意
- スタートアップガイド(本書)

重要　添付のバックアップCD-ROM、インストール/初期導入設定用ディスクは、再セットアップの時に必要となりますので大切に保管しておいてください。

* EXPRESSBUILDER CD-ROMの中には「ユーザーズガイド」や各種オンラインドキュメントも格納されています。ユーザーズガイドやオンラインドキュメントはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルです。

2 ユーザーズガイドを読む

ユーザーズガイドはバックアップCD-ROMの中に格納されています。ユーザーズガイドはAdobe Readerで閲覧できるPDFファイルで、次のHTMLファイルから表示させることができます。

<バックアップCD-ROM>:/manual.html

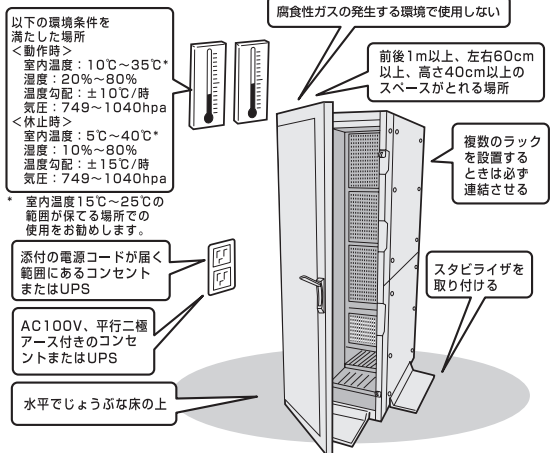
ユーザーズガイドでは、本装置を安全に取り扱うための注意事項や*Startup Guide*では記載されていないセットアップに関する詳細な説明、運用やアップグレードに関する説明が記載されています。また、「故障かな？」と思ったときのトラブル回避の手段やサービスに関する情報も記載されています。本装置を取り扱う前にぜひお読みください。

ヒント　PDFファイルを閲覧するためには、Adobe Reader 日本語版が必要です。Adobe Readerはアドビ社のWebサイトから無償でダウンロードすることができます(http://www.adobe.co.jp)。

製本されたユーザーズガイドが必要な場合は、もよりの販売店、またはお買い求めの販売店にお問い合わせください。また、ユーザーズガイドは、NECのWebサイトからダウンロードすることができます(http://nec8.com/　→　[サポート情報]をクリックしてください)。

3 ラックを設置する

本体はEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置して使用します。ラックに設置する場合は、次の条件を守ってラックを設置してください。

重要　ラックの設置は必ず複数名で行ってください。

⚠ 安全に関するご注意

装置をセットアップする前に「ユーザーズガイド」の「使用上のご注意　-必ずお読みください-」をお読みの上、注意事項を守って正しくセットアップしてください。

⚠ 警告

- **ぬれた手で電源プラグの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。**
- **内蔵型オプションの取り付け・取り外しは電源コードをコンセントから抜いて行ってください。**
- **雷が鳴り出したらケーブル類を含め装置に触らないでください。落雷による感電のおそれがあります。**
- **「ユーザーズガイド」に記載されている内容を除き、分解・修理・改造を行わないでください。**

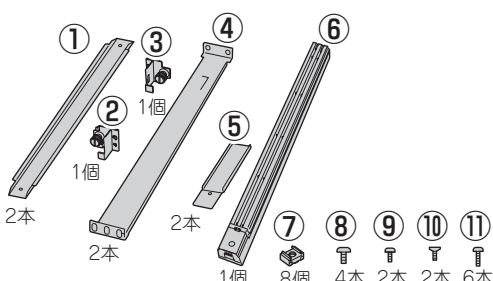
⚠ 注意

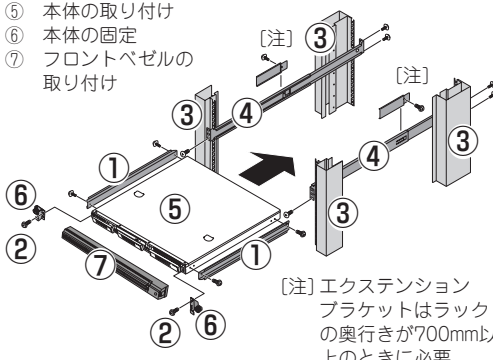
- **持ち運びの際は2人以上で装置の底面をしっかりと持って運んでください。**
- **水、湿気、ほこり、油、煙の多い場所、また直射日光の当たる場所に設置しないでください。**
- **装置に添付されている電源コード以外を使用しないでください。**
- **電源コードは指定の電圧、コンセントに接続してください。**
- **電源コードはタコ足配線にしないでください。**

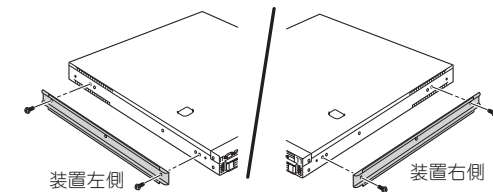
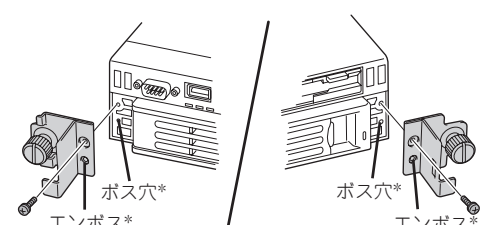
4 本体を設置する

本体をEIA規格に適合した19型(インチ)ラックに設置します。(プラスドライバ・マイナスドライバが必要)

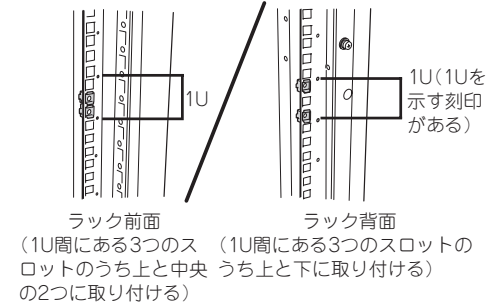
取り付け部品の確認

① マウントブラケット
② マウントホルダー(L)
③ マウントホルダー(R)
④ サポートブラケット
⑤ エクステンションブラケット
⑥ フロントベゼル
⑦ コアナット
⑧ ネジA(M4, 6mm)
⑨ ネジB(M3, 6mm)
⑩ ネジC(皿ネジ, M3, 6mm)
⑪ ネジD(M5, 10mm)

作業の流れ

① マウントブラケットの取り付け
② マウントホルダーの取り付け
③ コアナットの取り付け
④ サポートブラケットの取り付け
⑤ 本体の取り付け
⑥ 本体の固定
⑦ フロントベゼルの取り付け

重要　ラックの設置や本体の取り付けは必ず複数名で行ってください。

1 マウントブラケットのネジ穴と本体側面のネジ穴を合わせ、ネジA(各2本)で固定する。

2 ネジB(各1本)でマウントホルダーを取り付ける。

* それぞれのエンボスをボス穴にはめ込んでください。

3 本体を取り付ける位置(高さ)を確認してからコアナットをラックフレームのスロット(角穴)に取り付ける(前面/背面とも片側に2個ずつ)。

ラック前面(1U間にある3つのスロットのうち上と中央の2つに取り付ける)　ラック背面(1U間にある3つのスロットのうち上と下に取り付ける)

* コアナットはラック内側からマイナスドライバなどでコアナットのクリップをスロットに引っかけてください。

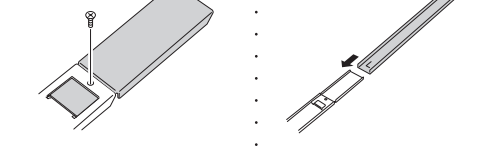
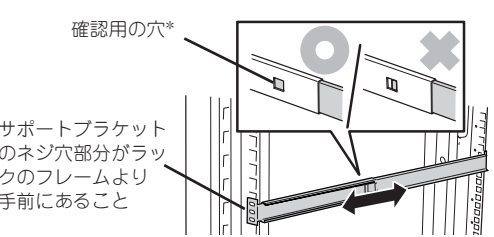
4 <ラックの奥行きが700mm以上の場合のみ>

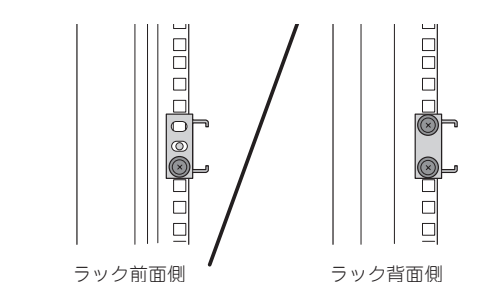
① マウントブラケットを引き延ばし、分解する。

② エクステンションブラケットをブラケットBに差し込む。

ツメに引っかかるまで差し込む

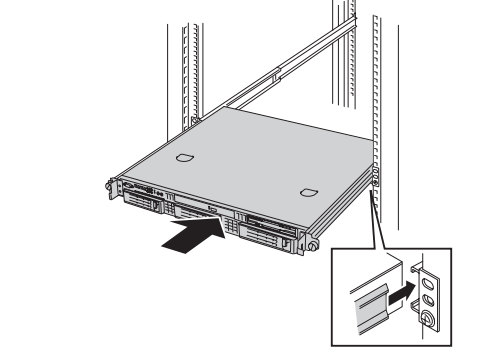
③ エクステンションブラケットをネジC(1本)で固定する。

④ ブラケットAをエクステンションブラケットに差し込む。

5 コアナットを取り付けた位置にサポートブラケット前後のフレームを合わせる。

* サポートブラケットの連結部分にある穴がもう一方のサポートブラケットでふさがれていることを確認してください。少しでも隙間がある場合は、エクステンションブラケットを取り付けてください。隙間が見える状態ではサポートブラケットの連結部分の強度が維持できません。力が加わると連結部分が外れてしまうおそれがあります。

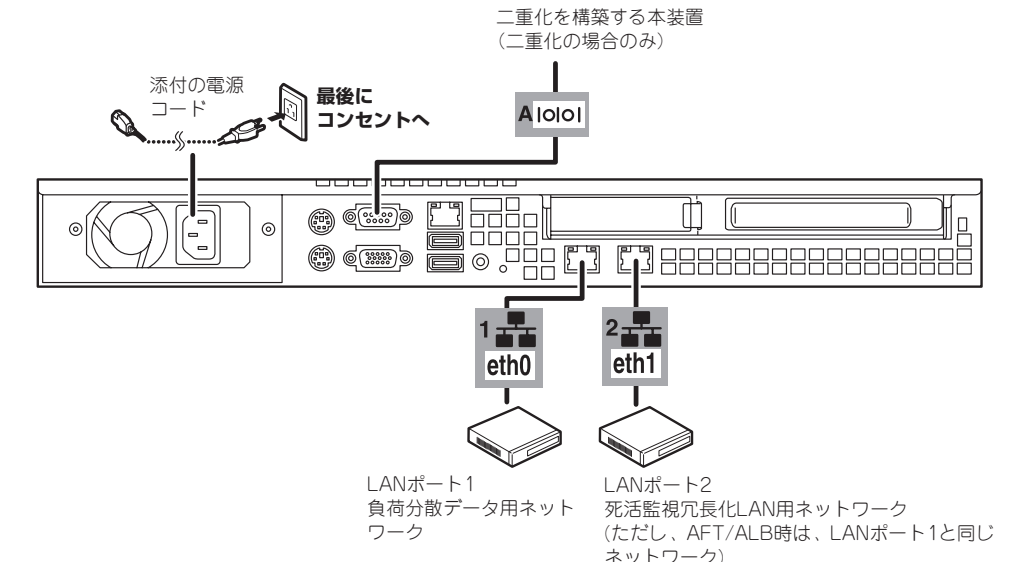
6 サポートブラケットを支えながらネジD(左右各3本)で固定する。

- コアナットのネジ穴がサポートブラケットのネジ穴の中央に位置するように固定してください。
- 装置を搭載したときに上下に搭載されている装置とぶつかる場合は、取り付け位置の調整が必要になります。

7 本体前面が手前になるように持ち、本体側面のマウントブラケットをサポートブラケットに差し込む。

- 取り付けは1人でもできますが、なるべく複数名で行うことをお勧めします。
- 本体の上下に搭載されている装置とぶつかる場合は、いったん本体を取り出して、サポートブラケットの固定位置を調整してください。

8 本体の前面をゆっくりと押してラックへ完全に押し込み、セットスクリューでラックに固定する。

5 ケーブルを接続する

本体背面にLANケーブルを接続した後、添付の電源コードを接続します。ユーザーズガイドの2章を参照してください。

重要　シリアルポートコネクタには専用回線を直接接続することはできません。

引き続きシステムのセットアップをします。裏面をご覧ください。

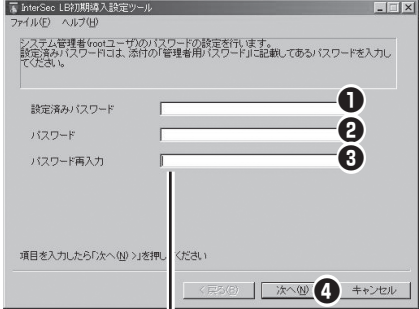
6 初期導入設定情報を作成する

本装置をインターネット装置として運用するために最低限必要となる設定情報が保存されたディスクを作成します。添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」とWindows(XP/2000以降を推奨)を用意してください。詳しくはユーザーズガイドの3章を参照してください。

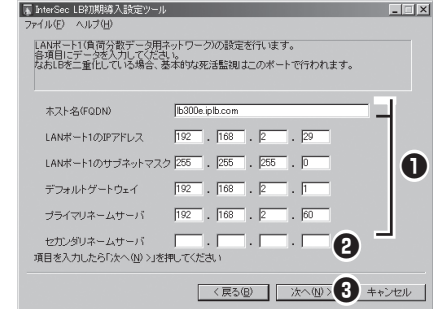
1. Windowsを起動する。
2. フロッピーディスクドライブに添付の「インストール/初期導入設定用ディスク」をセットする。

   インストール/初期導入設定用ディスクは<u>ライトプロテクトされていない状態</u>にしてください。
3. エクスプローラなどからフロッピーディスクドライブ内の「初期導入設定ツール(StartupConf.exe)」を起動する。

   InterSec LB初期導入設定ツールが起動します。ツールはウィザード形式で進みます。入力した内容が間違っている場合は先に進めません。警告メッセージに従って入力内容を確認・修正してください。
4. 管理PCから本装置にログインする際のパスワードを設定する。

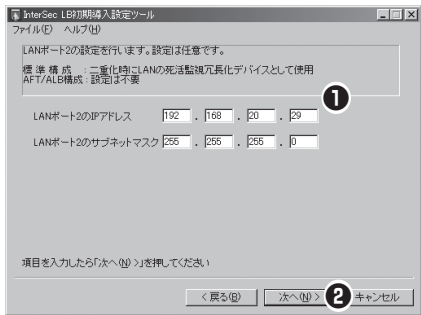
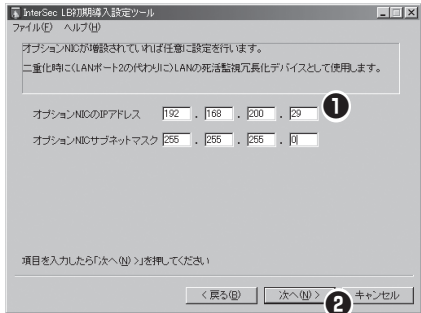
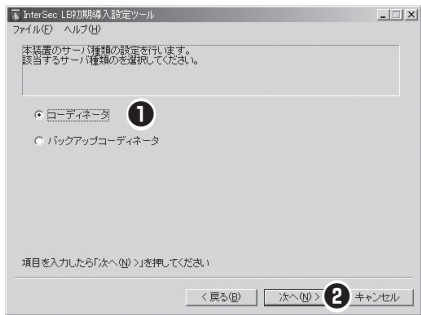
   ❶ 初めて設定する場合は本装置に添付の「管理者用パスワード」に記載されたパスワードを入力する。すでに本装置の設定をすませている場合は、設定済みのパスワードを入力する。
   ❷ adminでログインする場合のパスワードを設定する。
   ❸ ❷で入力したパスワードを入力してパスワードの確認をする。
   ❹ [次へ]をクリックして次に進む。

パスワードは画面に表示されない(「＊」で表示される)ため、タイプミスのないように注意する

5. 負荷分散データ用ネットワーク(LAN上のネットワーク)の設定をする。

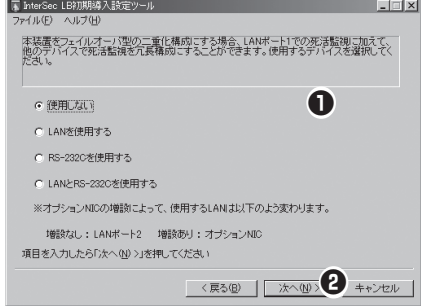
   ここで設定する情報はLANポート1(システムからはeth0ポートとして扱われます)に対するものです。
   ❶ タイプミスのないように各値を入力する。
   ❷ セカンダリネームサーバが存在する場合のみ入力する。
   ❸ [次へ]をクリックして次に進む。

ヒント ホスト名を入力してください。入力の際には、FQDNの形式（マシン名.ドメイン名)の形式で入力してください。

- ラベル(. で区切られた部分)の先頭、末尾がa-z, 0-9であること
- ラベルの途中の文字がa-z, 0-9, ハイフン(-)で構成されていること
- ホスト名とドメイン名とをわけるドット(.)が最低ひとつは存在すること
- ラベルすべてが数字ではないこと

6. 死活監視冗長化LAN用ネットワークの設定をする。

   ここで設定する情報はLANポート2(システムからはeth1ポートとして扱われます)に対するものです。設定は任意ですが、本装置を二重化(フェイルオーバー型クラスタ構成)し、コーディネータ、バックアップコーディネータ間で死活監視冗長化LANとして利用する場合は設定が必要です。ただし、オプションNICを増設している場合は、オプションNICが死活監視冗長化LANに使用されますので必要ではありません。なお、初期導入設定後にAFT/ALBを構築する場合は設定不要です。また、入力するネットワークアドレスは、LANポート1、オプションNICとは別のアドレスにしてください。
   ❶ タイプミスのないように各値を入力する。
   ❷ [次へ]をクリックして次に進む。
7. オプションNICの設定をする。

   ここで設定する情報はオプションNIC(システムからはeth2ポートとして扱われます)に対するものです。設定は任意ですが、オプションNICが増設されている場合、本装置の二重化時に(LANポート2の代わりに)LANの死活監視冗長化LANとして使用されますので、死活監視冗長化LANを使用する場合は設定が必要です。オプションNICを増設していない場合は設定不要です。また、入力するネットワークアドレスは、LANポート1、LANポート2とは別のアドレスにしてください。
   ❶ タイプミスのないように各値を入力する。
   ❷ [次へ]をクリックして次に進む。
8. 本装置の利用形態を選択する。

   ❶ 本装置2台を二重化(フェイルオーバー型クラスタ構成)にする場合は一方を[コーディネータ]、もう一方を[バックアップコーディネータ]として選択する。1台で構成する場合は、[コーディネータ]を選択する。
   ❷ [次へ]をクリックして次に進む。

なお、「システム構成設定」は、Management Consoleの「システム」アイコン→「LB基本設定」で変更できます。

9. 死活監視の方法を選択する。

   ❶ 二重化(フェイルオーバー型クラスタ構成)時の死活監視冗長化に関する設定を選択する。
   ❷ [次へ]をクリックして次に進む。

「システム構成設定」と「冗長構成設定」は、Management Consoleの「システム」アイコン→「LB基本設定」で変更できます。

10. [完了]をクリックする。

    入力した内容がインストール/初期導入設定用ディスクに書き込まれます。設定完了のメッセージが表示されるまでフロッピーディスクドライブから取り出さないでください。

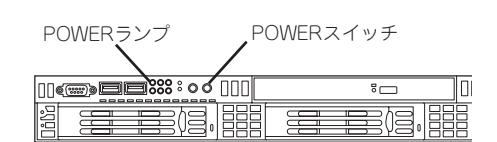
    設定内容を変更したいときは、[戻る]をクリックしてください。
11. [OK]をクリックし、インストール/初期導入設定用ディスクをフロッピーディスクドライブから取り出す。

    インストール/初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。大切に保管してください。

7 初期導入設定情報をロードする

インストール/初期導入設定用ディスクの内容を本体にロードして初期セットアップをします。詳しくはユーザーズガイドの3章の「システムのセットアップ」－「システムのセットアップ」を参照してください。インストール/初期導入設定用ディスクは再セットアップの際にも使用します。セットアップの完了後も大切に保管してください。

1. ステップ6で作成したインストール/初期導入設定用ディスクが<u>ライトプロテクトされていない</u>ことを確認して、本体のフロッピーディスクドライブにセットする。
2. 本体の電源をONにする。

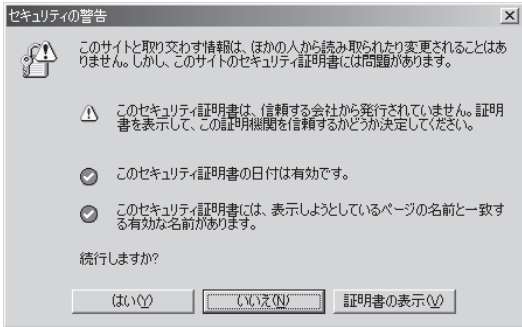
POWERランプ　POWERスイッチ

   セットアップを開始します。2～3分ほどで完了します。
3. フロッピーディスクドライブのアクセスランプが消灯していることを確認して、インストール/初期導入設定用ディスクを取り出す。

   セットアップに失敗した場合はビープ音を鳴らした後、自動的に電源がOFF(POWERランプ消灯)になります。その場合は、Windowsの「メモ帳」などを使ってインストール/初期導入設定用ディスクに書き出されるログファイル「logging.txt」を開いてエラーメッセージを確認し、トラブルの解決を試みてください。

   エラーメッセージの意味については、ユーザーズガイドの3章「システムのセットアップ」－「セットアップに失敗した場合」を参照してください。

8 システムにログインする

管理PCからシステムへ接続できることを確認します。詳細は、ユーザーズガイド4章の「システムの管理」を参照してください。

1. クライアントPC上でWebブラウザを起動する。
2. Webブラウザが、プロキシを経由させない設定になっていることを確認する。
3. 「アドレス(または場所など)」に「https://<本装置に割り当てたIPアドレスまたはFQDN>:50453/」と入力する。
4. セキュリティの警告画面で[はい]をクリックする。

5. [システム管理者ログイン]をクリックする。

6. ステップ6で入力した管理者アカウント名とパスワードを入力し、ログインする。

管理者用のトップページが表示されます。

9 AFT/ALBの設定をする

AFT/ALB(LANの二重化)の設定を行われる場合は、Management Consoleのトップページから[システム]をクリックします。

表示された画面より[AFT/ALBモード]をクリックすると、設定画面が表示されますので、設定を行います。

本機能を使用しない場合は、設定の必要はありません。

10 NTPの設定する

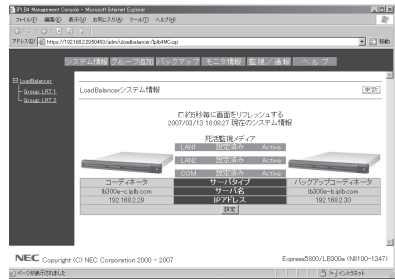
LBを含めたシステム全体の時刻同期、正確なログ採取のために、NTPの設定をお勧めします。Management Consoleのトップページから[サービス]をクリックします。

表示された画面より[時刻調整(ntpd)]をクリックすると、設定画面が表示されますので、設定を行います。

なお、LBを二重化(フェイルオーバー型クラスタ構成)している場合は、2台とも設定を行います。

11 負荷分散環境を構築する

Management Consoleのトップページから[LoadBalancer]をクリックします。

このページで負荷分散方式やさまざまな負荷分散機能の設定をします。詳しくはユーザーズガイド3章の「負荷分散環境の構築」を参照してください。

12 コンテンツデリバリ機能の設定をする

各分散ノードが保持するコンテンツの同期処理機能を設定します。この機能により、コンテンツの取得・配信・公開といった一連の流れの中の同期処理を任意のスケジュールで管理することができます。Management Consoleのトップページから[コンテンツデリバリ機能]をクリックします。

詳しくは、バックアップCD-ROMにあるExpress5800/LBシリーズ コンテンツデリバリ機能ユーザーズガイドを参照してください。

<バックアップCD-ROM>:/manual.html

本機能を使用しない場合は、設定の必要はありません。

13 ESMPRO/ServerAgentの設定をする

本体の状態を監視するソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent」がインストール済みです。ファンやマザーボード、ハードディスクドライブ、本体の温度などを監視するこのソフトウェアの設定(しきい値やイベントの通報先)をします。

詳しくは、バックアップCDにあるESMPRO/ServerAgentユーザーズガイドを参照してください。

<バックアップCD-ROM>:/nec/Linux/esmpro.sa/doc/users.pdf

接続に使用するクライアントマシンによっては罫線が文字化けすることがありますが、それぞれの機能は問題なく動作します。

なお、Management Consoleのトップページから[サービス]→[ネットワーク管理エージェント(snmpd)]をクリックし表示される画面でも、設定を行ってください。

14 管理コンピュータのセットアップをする

本装置をネットワーク上から管理・保守するソフトウェアを管理コンピュータにインストールします。ソフトウェアは、本体に添付の「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」に含まれています。管理コンピュータのCD-ROMドライブに「EXPRESSBUILDER (SE) CD-ROM」をセットすると表示される「マスターコントロールメニュー」からそれぞれインストールすることができます。詳しくはユーザーズガイドの5章を参照してください。

以上で完了です。